

上郡町の偉人

大鳥圭介

「鵬程万里」ほうていばんり第十九回

著者 中川由香

(平成二八年三月号、第十八回より続く)

「圭介まつり」は、二〇〇八年より毎年五月に、大鳥圭介生家のある石戸で五月に開催されています。岩木区自治会の方々が中心となり、赤松地区自治会長、岩木区役員や有志の方々が準備運営を行っており、今年で八回目を数えます。

圭介が愛した大避神社の獅子舞、アニメ「けいすけじゃ」テーマのバンド生演奏や、圭介の漢詩を吟じ合わせ生で書く「書道吟」など、毎年新たな企画を実施しており、上郡町の文化の保存と進化に寄与しています。今や白旗城まつりともに、学業や仕事で全国にいる方々が故郷に集まり愛着を深める一大イベントとなっています。

圭介の事跡を故郷に伝える漫画「けいすけじゃ」は、上郡民報に一九九三年四月から六年半、合計六十四回の長きに渡りほぼ毎月連載されました。漫画家の半沢裕人氏と時代考証担当の郷土史家西山昌夫氏、民報を発行された上郡民報社の方々の、継続した労力と苦心の結晶です。当初は小冊子に収まる程度の予定だった所、半沢氏が大鳥圭介の人生に触れるにつれ、それでは収まらなくなつた由。史料を丹念に読み解き当時の情勢を重ね合わせ、創作部分も含めながら、事実と記録に誠実に分かりやすく構成された、大鳥圭介伝記漫画です。

その「けいすけじゃ」のアニメが二〇一一年に制作されました。地元出身のアニメーター・

クリエーター・ボランテイア・役場の方々が総力を挙げ、アニメ「けいすけじゃ」が完成。歴史とサブカルチャの融合である総合文化プロジェクトであると同時に、作画、音楽、効果、背景、撮影など全てメイドイン上郡町の手作りの試みでした。通常の自治体作成アニメはアニメ会社に一括で外注して制作されますが、「けいすけじゃ」はまさに上郡町による上郡町のアニメです。作画や声優として高校生や主婦の方々が協力した、全国で他に類を見ない住民参加型の試みでした。アニメのもたらすインパクトは大きく、町外でも話題になり、小説などで引き立て役になる事が多い圭介の国内におけるイメージを向上かせました。「けいすけじゃ」は故郷の偉人への愛着と熱意と本気の結集であり、かけがえのない上郡町の宝といえるでしょう。

それら活動を伝える「大鳥圭介の生誕地おらが村」ウェブページ (<http://www.5fbiglobe.net/jp/~oouori/>) は、地元岩木の 大鳥圭介公 生誕地保存会の方が作成・運営しており、二〇〇三年より公開。以来十三年に渡り大鳥圭介顕彰活動や史料紹介、郷土史、地域活動について毎月更新しています。これ自体が一つの顕彰活動のデータベースであり、バーチャル記念碑と言える存在です。インターネットで全国の歴史ファンに知れ渡り、大鳥圭介に関心を抱く

方々の中継地としても機能中です。上郡町と全国双方からの大鳥圭介生誕地への関心を呼び込み、圭介再評価における草の根ムーブメントを巻き起こしています。

こうした活動の数々は、継続すること、その為の予算を確保し次の活動に繋げていく事が至難です。ドラマや映画で人物が取り上げられブームとなれば、一時は盛り上がりがあります。しかし、メディアの力を借りるより前に、本来の地元の方々の主体的な活力が醸成されていなければ、次の年には火が消えたようになり、却って地元の熱が冷めてしまうことになりかねません。実際に地元の力を高めること、若い世代へ引き継ぐ事を含めた継続性こそが何よりも重要です。この点を成し遂げている事こそが上郡町の顕彰活動の本質的な価値であるといえます。

大鳥圭介の顕彰活動がここまで発展した要因は、上郡の方々の熱意はもちろんですが、大鳥圭介という人物そのものの魅力による所が大でしょう。偉大な業績と共に、陶冶された人格とユーモアある圭介の人間味が、人々に活力を注ぎます。上郡町教育委員会島田拓学芸員は書画展「軍人の如楓文人の如楓？」の図録解説で「圭介の周囲にはいつも人の気配があり、多くの人の交友があった。圭介の学識などの能力による部分も多分にあつただろうが、立場が変わっても己の身を顧みず全力で国家のために尽くす大鳥圭介という人柄に人を惹き付ける力があつたからではないか」と述べます。圭介の事跡は今後も人々を魅了し、上郡町の方々が故郷に誇りを持ち活き活きし続ける源泉となり続けるでしょう。